

# 猛禽類(オオタカ)の保全対策について

東日本高速道路株式会社相馬工事事務所 正会員 樋本 智  
 東日本高速道路株式会社相馬工事事務所 渡辺 陽太  
 東日本高速道路株式会社相馬工事事務所 宮嶋 康太

## 1. はじめに

現在建設中の常磐自動車道(富岡～新地)はオオタカ(絶滅危惧 類、福島県指定)の主要生息域である丘陵、山地(里山地域)を通過する。

平成12年度より工事による影響を把握するためモニタリング調査を実施し、あわせて学識経験者からなる対策委員会を設置し、事業の進捗に合わせた対策を実施してきた。その一環として、現営巣を本線直近から引き離すための代替巣の設置を順次行っている。以下にオオタカの生態調査結果および実施した代替巣設置の効果について報告する。

## 2. オオタカの生態調査結果

・ 建設区間において12箇所のおオオタカ営巣地を確認した。H12からのオオタカ営巣地調査に基づき、環境条件を詳細に解析した結果、個体により好む営巣木の特徴があることが分かった。

継続して同じ営巣木を使用するタイプ(図1)と、営巣木を毎年のように変えるタイプ(図2)がある。

両タイプとも営巣地域は大きく変えない。

同一営巣地域内では、同一地形(沢・尾根等)、同一樹種(アカマツ・モミ・スギ等)、同一架巣形態(又型・樹幹型・枝先型)を愛好する傾向のあることが明らかになった。

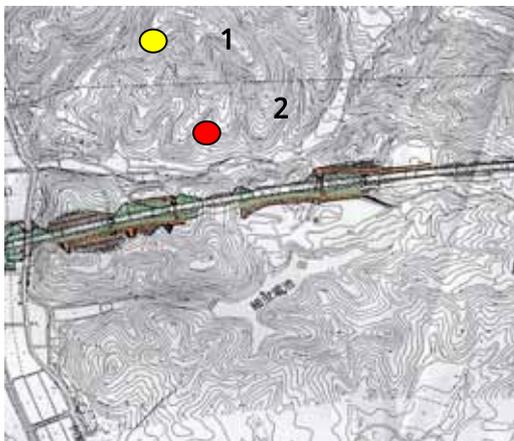
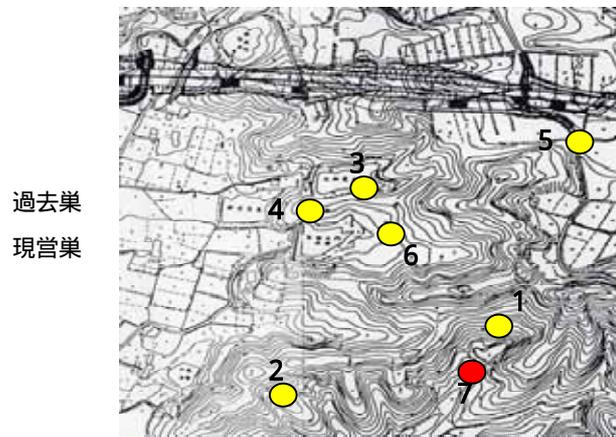


図1 営巣木を変えない事例(御山地区)

巣	営巣年度	地形	樹種	架巣形態
1	2000～2004	尾根部	アカマツ	又型
2	2005～2006	尾根部	アカマツ	又型

1の営巣木は2002年に枯死、2004年まで枯死木に営巣している。営巣木の枯死が営巣箇所を変えた(2005年～)主要因と考えられる。



過去巣  
現営巣

図2 営巣木を変える事例(富沢地区)

巣	営巣年度	地形	樹種	架巣形態
1	2000	沢部	モミ	樹幹型
2	2001	沢部	モミ	樹幹型
3	2002	沢部	アカマツ	樹幹型
4	2003	尾根部	アカマツ	樹幹型
5	2004	沢部	アカマツ	又型
6	2005	沢部	アカマツ	樹幹型
7	2006	沢部	モミ	枝先型

### 3. 代替巣設置について

計画路線上、もしくは直近でオオタカの営巣地がある地区については、計画路線から代替巣への誘導効果を狙った代替巣による対策を行った。

#### (1) 代替営巣地の選定、巣の形態



写真1 代替巣

計画路線の影響外(地形・距離)、営巣中心地域内(半径 350m)、旧営巣地と出来る限り同一条件(地形・樹種・植生・植生構造)、外部からの人的干渉が少ない地域(既存道路・民家・農地から離す)を基準とし、代替営巣地の選定をした。

代替巣の材料は「角材・棕櫚縄・現地採取の枝等」の自然巣と同じような材料・自然巣と同じような架巣形態にすることによりオオタカの警戒心をなくすように努めた。設置はオオタカの非繁殖期(12月)に行った。(写真1)

#### (2) 代替巣設置による効果

初野地区では2004年の12月(非繁殖期)に代替巣を2箇所設置した。その結果、2005年は2004年のオオタカ営巣地 4から代替巣1に近い側に2箇所(5、6)造巣し、そのうち5において繁殖した。次いで2006年は代替巣1においてオオタカの繁殖が確認された。本地区の個体は営巣木を変えるタイプであり、代替巣の利用が期待されていたが、2005年は代替巣の誘導効果が見られ(直近の農道工事による影響回避を目的とした4巣から代替巣1側への誘導)、2006年は代替巣1において繁殖に成功したことになる(写真2)。代替巣利用の要因としては、6の自然落巣が挙げられ、より林内にあり営巣環境としては良好な代替巣1に営巣したものと考えられる。



写真2

代替巣上の幼鳥

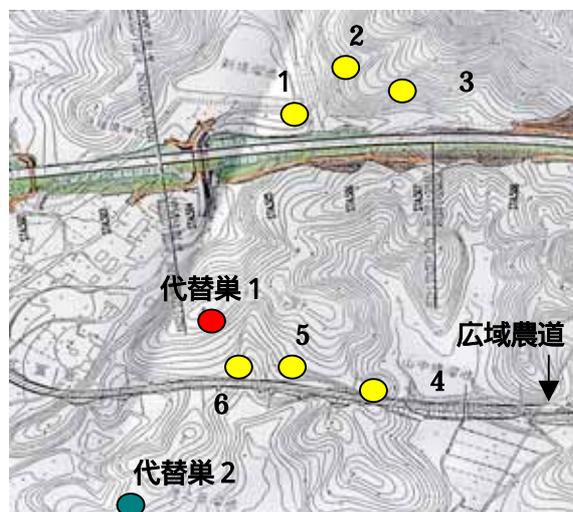


図3 代替巣設置地区(初野地区)

巣	営巣年	地形	樹種	架巣形態	代替巣
1	2000	沢部	モミ	枝先型	
2	2001	尾根部	アカマツ	枝先型	
1	2002	沢部	モミ	枝先型	
3	2003	斜面部	モミ	樹幹型	
4	2004	斜面部	アカマツ	樹幹型	設置
5	2005	尾根部	アカマツ	枝先型	
6	2005	沢部	アカマツ	枝先型	
代替巣1	2006	沢部	モミ	樹幹型	繁殖成功

代替巣は 3営巣と同じ樹種・架巣形態とし、誘導効果を狙っている。

過去巣

現営巣

代替巣

### 4. まとめ

これまでの調査により、各地区のオオタカの繁殖状況・行動範囲、地区ごとの選好等の特性がおおむね把握できた。その結果を踏まえ、工事工程に合せた効果的な対策(代替巣設置に加えて営巣時期における行動範囲外での工事等)を実施していく。今後もオオタカの営巣状況のモニタリング調査を実施し、相双地区全体の自然環境と共存した自動車道の建設を目指していく。